

池島勘治郎作品・資料調査についての報告書

大阪新美術館建設準備室 外部研修生

川崎真由香

1、はじめに

私がこのインターンシップに参加した理由は、以前から興味のある美術の分野において、学芸員に興味を持ち、具体的な仕事内容を学びたいと思ったからだ。大学で建築を学ぶ上で、将来は、感性で美しいと思うものに理由付けをし、その考えや新しい価値観を発信できる仕事がしたいと思っている。

2、研修日程

第一日目（8月21日）午前9時～12時

第二日目（8月22日）午前9時～午後4時

第三日目（8月23日）午前9時～12時

第四日目（8月24日）午前9時～12時

3、研修内容

大阪新美術館建設準備室に保管されている池島勘治郎の作品の状態を調査し、作品調書の作成およびデータの修正を行う。

まず、資料を一枚ずつ机に並べ、サインの有無や、裏面に記入された作品のタイトル、制作年月日、展覧会出品歴を確認し、作品調書を作成するとともに、作品データと照らし合わせ、不足があれば書き足し、修正する。その際は、記載どおりに表記が仮名か漢字か、また漢数字か算用数字かまで細かく調書に記入した。

次に、作品の寸法を計測し調書に記入する。作品は木枠に画鋲で紙を貼り付けて描かれているため、絵の大きさと、その周りの描かれていない、画鋲で留められていた部分を含めた紙全体の大きさの両方を計測した。その理由として、この計測結果は、額装をして展示する際に作成されるマットの寸法の目安となるからである。

そして、作品の状態を調書に記入する。下に参考として、一枚の絵の状態を記入した調書を添付する。この調書には、折れや剥落、破れなどの現在の状態を細かく記入する。

以上が主な作業内容である。

資料によっては、表面の突起したマチエールが他の作品と擦れて毀損しないような工夫をして、保存されている。その方法は、段ボールを用いて段差を作り、絵の表面が上の作品と重ならないようになっているのだが、段ボールの固定がガムテープのため適切な保存方法とは言えず、資料にガムテープが付着しているところもあった。将来的には、このような即席の保存から、絵を保存するのにふさわしい材料・方法に変える必要がある。

4、「作品」と「資料」の違いについて

この研修でテーマとなったのは、「資料」と「作品」の違いである。

美術館で展示されているものは、様々な理由により、多数ある資料から選ばれた作品である。そして、「資料」を「作品」にするには、どこが優れているのかを明言しなければならない。他と比べて賛否するのは簡単だが、絶対的な価値をその作品に与えるのはとても難しい。

実際、美術史において、もしくは作家の画業における位置づけ等を考慮していないにせよ、私たち外部研修生が研修中に、全員一致で展示可能な「作品」にふさわしいと思ったクオリティー、作品状態のものは僅かしかなかった。修復処置をせずにすぐに展示可能な「作品」が少ないこと、展示できるまでに様々な手がかかることを実感した。

私なりに考えた「作品」の定義は、「一目で心に残るもの」だ。私は、絵画を見て楽しいのは、何か考えさせられ、感動したり、嫌悪感を抱いたり、脳に染みついて忘れられなくなることが、自分にとって新しい刺激になるからだと思っている。つまり、理由もなしに良いと思えるものが本当に素晴らしいものなのだと考える。しかし、それはあくまで主観であり、普遍的な価値をそこに見いだそうとすると、必ず理由が必要になる。

そこで必要となるのが学芸員である。学芸員は美術作品に触れる機会が多く、美術の歴史や技法、画家、主義、流派などの専門知識を持ち、様々な比較対象を知っている。作品には普遍的価値が必要であるからこそ、学芸員の存在の必要性があるのだと思った。

5、おわりに

池島勘治郎の作品は、大きく力強いもので、様々な技法が用いられ、色が多数重ねられた複雑な作品や、水彩画の良さを生かした淡い色合いや濃淡のグラデーションが印象的な作品など、それぞれ違う特徴を持っている。そして、描かれている対象は抽象的な形であることが多く、それがどこにどのように描かれているのか、無題の作品に描かれているものは何なのか、今となってはわからない。しかし、作品に描かれているものを、表現方法や形から推測し、意見を出し合い考えるのが面白く、人によって見え方が違い、いくつも正解があることが興味深かった。

この研修に参加して、学芸員の仕事は、参加する前にイメージしていた華やかなものとは違い、このような地道な作業の繰り返しもまた学芸員の主な仕事のひとつであることを知った。この作業や基礎調査の上に、展覧会や美術館での様々な企画が行われていると思うと、企画や作品の選定に時間を掛けた分、もっとたくさんの人に美術館の魅力を知って欲しいと思った。

そして、画家がこれほど多くの作品を描き続けて、そのうち歴史に残り、多くの人に見てもらえる作品はほんの一握りであることをこの研修で実際に見て、知ることができた。それと同時にすべての作品を見ることができて、貴重な体験ができる研修だった。

